



## 1. 生徒が自分で「決められる」北高へ

昨年度一年間で本校に寄せられた苦情の件数は18件、今年度4～6月のわずか3ヶ月で昨年度の半分9件です。交通事故の発生件数は、昨年度一年間で19件に対し、4～6月で11件です。みなさんは、この数字をどう考えますか？

大きく改定された生徒心得の運用がこの4月開始になりました。改訂のポイントは、細々した規則的なものではなくし、「法的責任」、「社会通念上の必要性」、「人格的自律」を必要最低限の判断基準として、以下のように決めました。

1 校内外の生活について 以下の3点について、自覚と誇りをもって校内外の生活を送る。

- (1) 高い志とグローバルな視野を持ち、自身の未来を自らの手で切り拓く岐阜北高生
- (2) 地域社会の持続可能な発展に貢献できるたくましい実践力を備えた人間性豊かな岐阜北高生
- (3) 倫理観と規範意識に基づく社会性と他者を思いやる心に富む岐阜北高生

以下の3点を禁止事項とする。これらの行為を行った者は、岐阜県立岐阜北高等学校学則 第6章 第31条 特別指導の対象となることがある。

- (1) 法令および条例等によって禁止されている行為
- (2) 人権を侵害する行為
- (3) 授業や学校行事の忌避等、岐阜北高生としての本分に反した行為

特に服装規定に関しては、多くの労力と長き時間をかけ、「制服を基本としつつ、季節や状況に応じて選択制を導入する」、「靴下や靴、ストッキング、制服の下に着るものや、制服の上に羽織るものは制服とせず、生徒心得で細かく色などを規制しない。生徒がTPOを自ら考え、判断して品性を保って着こなす」ということになりました。

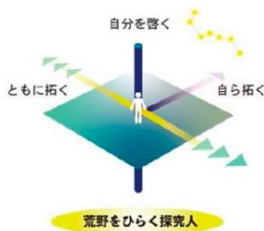
コンプライアンスが叫ばれる昨今、国や企業は以前に増して多くのルールを導入するようになりました。私はこれをあまり望ましい状況ではないと思っています。ルールが増えれば、手続きも増えます。手続きが増えれば組織の効率も低下します。組織がルールでがんじがらめになると、そこに属する者は考えることを放棄し、物事への柔軟な対応が難しくなります。つまり、「ルールだから守れ」と言われ続けるうちに、多くの者は形式主義に陥り、「ルールで決まっているからダメ」と硬直的な対応をしてしまいます。そして何より、ルールが強調されるとその境界線上の内側ギリギリのところ立って、「ルールは守っているから問題ない」と平気な顔をして屁理屈を言う者が増えるのです。

新たな生徒心得が目指すべき中心点は“モラル”だと私は考えています。意味を調べてみると“モラル”とは善悪の判断基準のことを指し、「道徳」・「倫理」と同義です。“モラル”は段階的に発達していく、最終段階では「他者への理解や思いやり」につながっていくはずです。



ルールは、“モラル”からこれ以上離れてはいけないという限界を示す境界線、離れていかないように自分たちを律するための一つ的手段に過ぎません。北高生が目指すべきは、自分で考え、判断し、より高いレベルのモラルを身に付けることです。だから、ルールは必要最低限でいいんです。ルールを多く設けて、それを強調しすぎると、ルールを守ることが目的化して、モラルが軽視される逆転現象が起きます。過剰なルールが、かえってモラルの低下を引き起こすのです。

現代は先行きが不透明で、将来の予想が困難な状態、VUCA(ブーカ)の時代と呼ばれます。VUCAとは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字からなる造語です。今後、Web 3.0では、テクノロジーの進展による破壊的イノベーションが起き、特にビジネスモデルにおいては、陳腐化するスピードが加速度的に増していくと言われています。これはまさに荒野です。スクール・ポリシーにある通り、みなさんは北高での学生生活の中で、自らの手で、この荒野を切り拓いていく探究人に成長していくのです。



そのためにこの夏季休暇を有意義に過ごしてください。課題や部活に追われるだけの時間にはしないでください。自分軸を作ってください、哲学を作ってください。その手掛かりの一つなるのが“モラル”です。みなさんのモラルが育まれれば、自然と苦情や交通事故の件数も著しく増加していくことはないでしょう。

**あなたは どう 思いますか？**

## 2. 夏季休暇直前の基調講演

「夏季休暇をより有意義な時間にしてもらうために」、また「進路実現に向けてのヒントになれば」という考えで、7月22日(金)の全校集会で30分間(質疑応答も含む)の基調講演を行います。Guest Speakerは、iroots エバンジェリストの小笠原 寛(おがさわら ひろし)氏。※時間があるときに iroots のHP をぜひ見てください。今どのような人材が求められているかが分かります。

人材業界、特に新卒採用の最前線でご活躍の小笠原氏、「変化が激しく、何を信じたらいいのか」という昨今、流行は何か、これからどのような力を身に付けておくべきなのか。長きにわたって、学生と接し続けてきたご経験から、そのリアルをお話していただきます。以下は、みなさんへの事前メッセージです。

### 小笠原 寛

irootsエバンジェリスト

幼少期から体が弱く、いじめも経験したが、周りの理解と支援のもと、無事現在に至る。上智大学卒業後は人材派遣・紹介・採用責任者・新卒紹介事業立上げ・外国人留学生支援NPO・独立等の一連の経験を通じ「本音」の大切さを痛感。2012年iroots参画。2016年よりエン・ジャパン株式会社。1975年横浜市生まれ、現在は岐阜県関市在住。

### 講演の内容 ~夏休み前だからこそ北高生に伝えたい~

貴校の『荒野をひらく探究人』とは自分のルーツを愛し、自分の「知りたい」ことに素直で、未来の自分と周囲の他人に希望を持ち、共に丁寧に課題に向き合う人であると私は理解しました。この理解のもと、貴校のスクール・ポリシーに感銘を受けました。「夏休み、学生が本当に“知りたい”のは何か？」を考えるきっかけ作りができたら幸いです。

## 3. 夏季休暇を前にして

### (1) 最優先事項は「**かけがえのない尊い命を守る**」こと

開放的な気分になりがちな夏季休暇です。事故や事件に巻き込まれぬように自己防衛意識を高めましょう。

#### ① 自己防衛意識・危険回避手段

- ・危険だと思われる場所・時間帯を避ける。万一の場合には身の安全を第一に考え、不審者に遭遇した場合は、大きな声を出して逃げてください。
- ・特に夏は、変質者(痴漢など)による被害が増加します。目に余るような装いや薄着、短いスカートなどは避けましょう。
- ・「四ない運動(免許をとらない。車・バイクを買わない。乗らない。乗せない。)」を守ってください。

#### ② 自転車に乗るとき

- ・自転車の交通事故は、被害者になることだけでなく、加害者になることもありますので、十分気をつけましょう。
- ・交差点では一旦停止し、車や歩行者がいないか必ず確認しましょう。
- ・車がいる所を通行する場合、運転手が自分に気づいていることを確認するため、運転手とアイコンタクトを取りましょう。
- ・並列通行、二人乗り、スマホ等やイヤホンを使用しながらの運転及び傘差し運転は、危険ですのでしてはいけません。
- ・自分の存在を周りに知らせるため、夜間はライトを点灯しましょう。
- ・万が一、事故に遭遇した場合は、必ずお互いの連絡先を交換し、保護者・警察(110番)や消防・救急(119番)・学校に連絡してください。

### (2) 困ったこと、相談したいことがあるとき

① 夏季休暇中であっても、自分や一緒に暮らしている家族に発熱等の症状があったり、PCR検査を受検することが決まったり、濃厚接触者になったりなど、新型コロナウイルスの感染が疑われる場合は、必ず学校に連絡してください。

② 学校に相談しづらいときは、以下の窓口等に相談しましょう。

#### 【LINEによる相談】

◇「子供 SNS 相談@岐阜(2022)」相談期間:8月21日から9月3日 17:00~22:00(最終受付 21:30)

#### 【いじめ・不登校・虐待・学習・進路・人権に関する事等についての相談窓口】

◇「24時間子供 SOS ダイアル」0120-0-78310(夜間・休日・祝日全24時間体制)

◇「教育相談ほほえみダイアル」0120-745-070 月~金 9:30~16:15(祝日は除く)

※携帯電話からつながりません。

#### 【事件・事故等があった場合】

◇地区少年サポートセンター(最寄りの警察署の生活安全課につながります) 0120-783-802(フリーダイヤル)